

経営比較分析表

佐賀県 雄野市

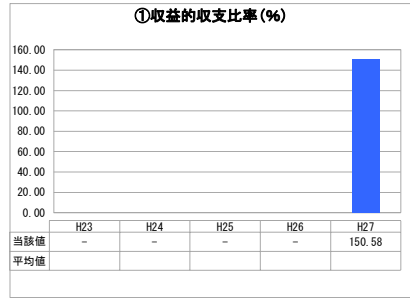
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)
-	該当数値なし	32.03	100.00
1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)			
2,910			

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
27,308	126.41	216.03
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
8,692	6.47	1,343.43

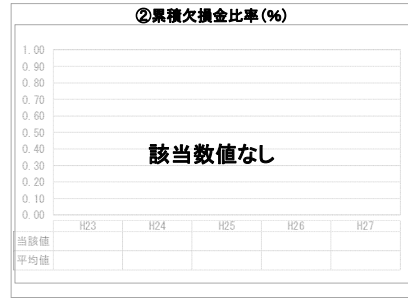
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 平成27年度全国平均

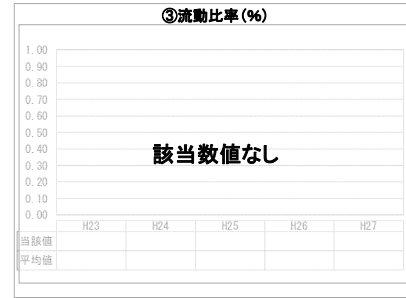
1. 経営の健全性・効率性



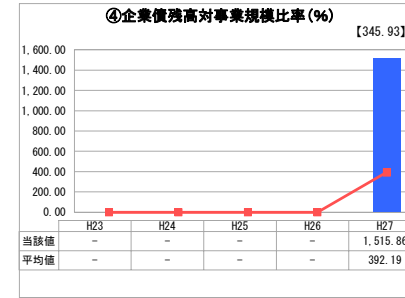
「単年度の収支」



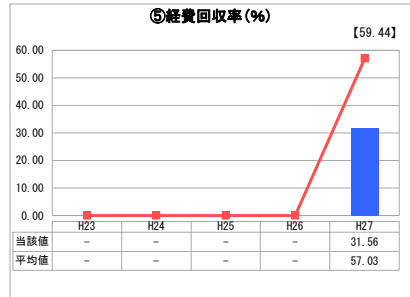
「累積欠損」



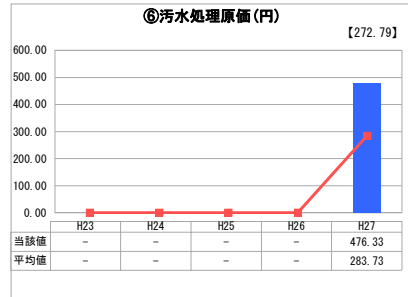
「支払能力」



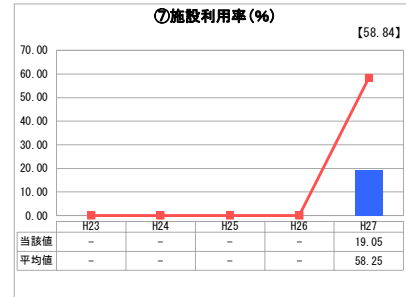
「債務残高」



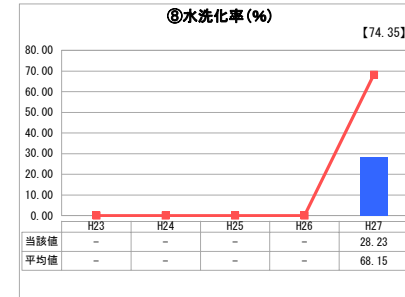
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

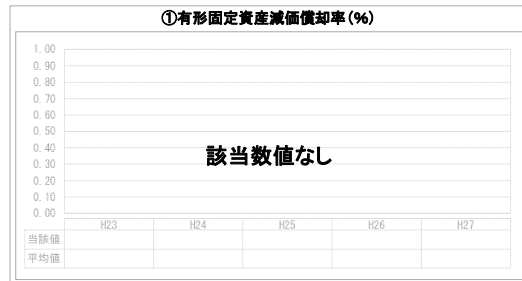


「施設の効率性」

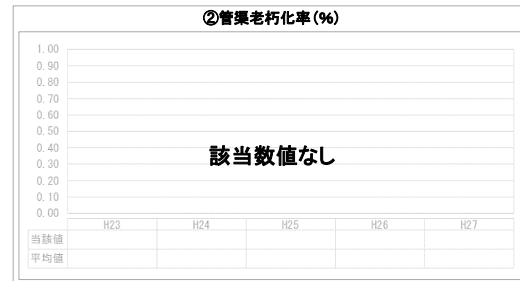


「使用料対象の捕捉」

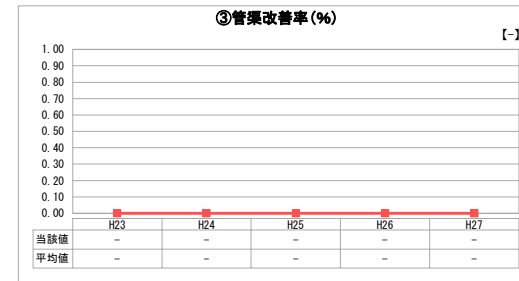
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

今回は、事業開始年度の数値であり、年度内の設置基数が少ないため、類似する団体との数値とのかい離が見られる。事業を継続しながら分析することで今後の事業運営に生かしていくものと考えている。

④企業債残高対事業規模比率
料金収入に対する企業債残高は、類似団体より著しく高い値で推移した。料金の見直しと加入者の増加による収入の増加が必要である。

⑤経費回収率は約30%であり、使用料以外から賅っているのが現状である。使用料が適切であるか見直す必要がある。

⑥汚水処理原価は平均値より高くなっている。接続率の増加や維持管理費の見直しにより、汚水処理原価を低くしていく必要がある。

⑦施設利用率は平均値を大きく下回っている。処理施設の利用状況を考える必要がある。

⑧水洗化率は整備中の事業であるため、平均値と比べて低い水準となっている。

2. 老朽化の状況について

平成27年より整備を行っており、管渠等の老朽化はまだ発生していない。

全体総括

今回は、事業の初年度であったことや、年度内の設置基数が少なかったため、類似する団体との数値とのかい離が見られる。事業を継続しながら分析することで今後の事業運営に生かしていくものと考えている。

現在は、他会計からの繰入金が少ないが、今後の社会情勢の変化や財政状況に応じて使用料の改定を検討し、安定した健全経営を目指す。浄化槽や制度の利点を周知しながら、住民の衛生的な生活環境や水環境を守るため、事業を推進する。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。